

民芸の溪めぐりに出かけてみませんか？



民芸の溪



春は桜、秋は紅葉を楽しめます

散策コースのご案内



民芸を巡るコース 2km・30分

本多記念民芸の森 ● 柳宗悦・心傷の碑(5ヶ所) ● 民芸館
● 柳宗悦の書齋(第1民芸館)

平戸橋の陶芸を巡るコース 1.4km・20分

本多記念民芸の森 ● 古志戸窯跡 ● 陶塚(民芸館)
● 穴窯(民芸館)

平戸橋の歴史を巡るコース 周遊 4.4km・1時間10分

本多記念民芸の森 ● 枝下用水 ● 前田公園 ● 勘八水管橋
● 馬場瀬古墳群 ● 平戸大橋 ● 胸形神社 ● 本多記念民芸の森

桜の名所として知られる平戸橋、かつては交通の要衝、川港として栄え、その峡谷美は昭和2年、愛知県下新十名所の1つとして選ばれるほどの一大観光地でした。そして平戸橋の土を愛した陶芸家たちが集まり、実業家・古陶磁研究家の本多静雄によって蒔かれた民芸の種は、民芸館の誕生につながり、その精神は今もこの地に受け継がれています。



民芸館の春



民芸館の秋

民芸を巡るコース 2km・30分

本多記念民芸の森 (本多静雄旧邸)



本多が自らの名からつけた雅号「青佳(せいすい)」から名付けられた田舎家「青佳居」

民芸の森は、実業家・本多静雄の邸宅跡地です。本多は、加藤唐九郎や河村喜太郎と交流を結び、猿投窯や渥美窯の発見に大きな功績を遺しました。また、民芸運動の提唱者・柳宗悦とも交流があり、豊田市民芸館の設立にも貢献しました。

こころろた 心偈



●心偈五十「打テヤ モロ手ヲ」

両手を打って、謙ゆべきものを持つことが出来れば、生活は輝く。何故なら、人間はこれで謙譲や、反省や、精進や、清浄やもろもろの徳に交わる縁と、固く結ばれるに至るからである。

●心偈一「今日モアリ オホケナクモ」

今日、こうして存在しているのも、多くのものの力に支えられているお陰である。

●心偈四三「見テ 知リソ 知リテ ナ見ソ」

まず直感を働かせて得たものを、後から概念で整理せよ。知ることを先にして、見ることを後にしてはいけない。

●心偈三三「ナ 云ヒソ 明日ト」

「云う勿れ、明日と」。今日の仕事は、今日一ぱいの仕事にすべきである。昨日も明日もない。今日が仕事全体となるべきである。

本多は平戸橋駅から民芸館までの約1kmの道のりに、来館者の目印になるようにとの想いから、柳宗悦の心偈72首のうち5首を選び、碑を設置しました。碑文の文字は本多の書です。

●心偈五三「扉アリ 入ルヤ 出ツルヤ」
見れば扉に一枚の札がかかっている。記していう。「入るや出づるや」と。果てしもない公案である。

第1民芸館



柳宗悦設計による第1民芸館

昭和11年に開館した柳宗悦設計の日本民藝館(東京都・駒場)の大広間と館長室を本多の助力でこの地へ移築し、昭和58年に開館しました。外壁や展示室の床には大谷石を用い、照明器具などにも柳の意匠が見受けられます。移築された書斎(館長室)は昭和35年に増築されたものです。

平戸橋の陶芸を巡るコース 1.4km・20分

こしどがま 古志戸窯跡



昭和18年から昭和41年頃にかけて、この平戸橋あたりは、加藤唐九郎、岡部嶺男、加藤重高、河村喜太郎、河村又次郎ら著名な陶芸家が作陶活動を行う陶芸村のような時期があり、加藤家の敷地内に作られた窯は「古志戸窯」と呼ばれていました。本多は彼らと交流し、また支援を惜しみませんでした。現存する窯跡(写真)は岡部のものです。

陶塚



陶塚は左記の「古志戸窯」を記念し、また平戸橋の地で作陶活動を行っていた陶芸家たちの業績を顕彰するために昭和62年4月に民芸館の敷地内に建設されました。

穴窯



豊田市高崎町にあった平安時代の古窯・兼近1号窯を、昭和55年に豊田市卸売市場の建設に伴い、発掘調査・移築復元しました。民芸館の穴窯陶芸講座ではこの窯を使って焼成します。穴窯ならではの窯焚きの体験や、自然釉がもたらす陶器の美しさなどを感じていただけます。

平戸橋の歴史を巡るコース 周遊 4.4km・1時間10分

しだれようすい 枝下用水



越戸ダムより矢作川の水を取水、豊田市を横断して知立市北部までを潤す延長約110kmの用水路です。明治27年の完成までには工事が難航し、そのための資金難などにより、民間事業者も手を引く中、滋賀県出身の西澤真蔵が私財を投じて完成させました。民芸館周辺には枝下川神社や枝下用水の起点とされる場所もあります。

前田公園



越戸村(当時)出身の実業家・前田栄次郎が故郷の発展のために昭和7年から3年あまりをかけて建設した公園です。洞ヶ峯と呼ばれる丘陵の頂に安置された聖観音菩薩へと続く101段の階段の両側には、稲荷社や六角堂、石仏巡りやさまざまなモニュメントが配されています。戦時中の金属供出のため、像や記念碑の金属板は失われています。

まばせこふんぐん 馬場瀬古墳群



矢作川の段丘に築かれた8基中7基が現存する市内でも比較的大型の古墳群です。中でも8号墳は状態の良い円墳で、須恵器・土師器、装飾品などの出土品の特徵から7世紀前半の古墳と考えられています。

むなかた 胸形神社



古くは、祠が矢作川右眼下の巨岩「波岩」にありました。市杵島比売命(いちきしまひめのみこと・弁天)を祀り、通称「弁天さん」と古くから地域の人に呼ばれ親しまれてきました。昭和8年、前田栄次郎により神殿・拝殿の新築がなされ、前田が公園をイメージして造ったことから、六角記念碑や太鼓橋などのモニュメントがあるのも特徴です。

かんばちせりょう 平戸橋と勘八峡



矢作川兩岸の平井と越戸を結ぶ橋として架けられた平戸橋。昭和2年には平戸橋から北側一帯の勘八峡が県下新十名所の1つに選ばれるほどの景勝地として賑わいました。かつては鵜飼も行われ川面に漁り火をたいた鵜舟を取り囲んで遊覧船が行きかう場所でした。

◀平戸橋から望む冬の勘八峡

発行

豊田市民芸館
令和6年4月改訂